



予算審議はじまる 過去最大3311億円

総額3311億円と前年より139億円増の過去最大規模の予算案が、2月定例議会で大森市長から提案されました。市長は今回の予算を「『災害に強い岡山市』実現予算」と名付けています。

防災・減災予算は14億7千万円 (前年比1.5倍) 自主防災組織100%を目標!

身近な町内会を主体とする自主防災組織が、災害時に高齢者や障害者の避難を支援するとして、現在の組織率64.5%を2019年度中に100%にすることを目標としています。その財政措置として、今までの結成時10万円分の防災備品支給から10万円の助成に変更し、あらたに加盟世帯数に500円を掛けた金額を上乗せ支給するとしています。

また結成を簡素化するため、五つの役割(消化班、救護救助班、避難誘導班、給食班、情報通信班)のうち避難誘導班を基本に結成できることとなります。自主防災組織等育成事業には3億4700万円が予算化されています。(今年度は1200万円)

ご近所同士の避難を支えるが大切

自主防災組織の役割を避難行動を支援することに絞ったことで、地震、水害など災害別や、発生日、曜日、時間帯ごとに、身近な生活範囲での避難計画を作成し、避難訓練を繰り返す事が活動の中心になります。

ただ単位町内会も10数世帯から1000世帯を超えるものまでいろいろです。自主防災組織は、ご近所同士での避難や避難訓練の実施を支えることにも力点を置いてほしい。

一方で、現物支給から10万円支給への変更や、加盟世帯数に500円を掛ける500円が適正という根拠は示されていません。防災とはいえ、大切な税金です。実施後の検証は欠かせません。

内水氾濫対策はどうなる?!

7月豪雨災害では、北区国ヶ原で旭川、東区平島で砂川の堤防が決壊しました。市内各所でも内水が氾濫し浸水被害が発生しました。

予算では、これらの対策として、ポンプ場や排水機場の整備等と合わせて、横井・津島排水区は現況水路の調査などにより浸水対策を検討するとなっています。また浸水(内水)ハザードマップを見直し、7月豪雨の浸水区域や浸水の深さを反映するとしています。浸水した区域にたいして今後ハード事業として、計画的に対策を打っていくことが必要です。この議会で、その点を当局に尋ねます。

国・県・市と河川管理者はバラバラ 「そこはうちの管理ではない」 「ええーっ?!」

岡山市を流れる河川管理者は、旭川は大原橋の上流は県、下流は国、百間川は国、笹が瀬川、砂川は県、倉安川は岡山市となっています。自然に流れる同じ水の管理者がバラバラです。「そこはうちの管理ではない」と国、県、市の担当者から何度も聞かされました。この縦割りを見直すことを、昨年の災害を受け私は痛感しました。市民の命と財産を守るために、岡山市は全国に先駆けて見直しを訴えてほしいと思います。

下市このみ事務所からのお知らせ

- ▼2月定例市議会
2月20日(水)～3月15日(金) 岡山市役所議会棟
- ▼岡山市議会議員選挙
告示日:3月29日(金) 投票日:4月7日(日)